

地域で語り継がれる津波経験 (橋北東部地区編)

平成21年3月

釧路市橋北東部地区防災推進協議会
国土交通省国土技術政策総合研究所
河川研究部海岸研究室

この資料について

- この資料は、釧路市橋北東部地区防災推進協議会と国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部海岸研究室が平成20年11月～平成21年2月に開催した「津波からの避難に関する座談会」においてまとめられたものです。
- この資料は、記憶が薄れつつある過去の津波の経験をまとめ、地域の方々に広く知っていただくことにより、予想されている500年間隔地震などに対する防災意識を高めることを目的として作成されました。
- この資料に掲載されている絵は、座談会での体験談に基づくものです。
- 500年間隔地震では、過去の地震を大きく上回る津波が予想されており、この資料より津波の高さや動きは大きくなります。
- この資料を用いて行う一切の行為について、この資料の制作者は何ら責任を負うものではありません。

(参考)戦後に発生した釧路の主な地震

- ・昭和27年3月4日 十勝沖地震

集合煙突の倒壊とズリ山崩壊により15人が死亡。釧路港は高さ1.5mの津波に襲われ、多数の人が避難する。

- ・昭和35年5月25日 チリ地震

津波で釧路港などの漁船が損壊し、住宅浸水などの被害を受ける。

- ・平成5年1月15日 釧路沖地震

震度6の揺れにより、釧路市で死者1人、負傷439人。

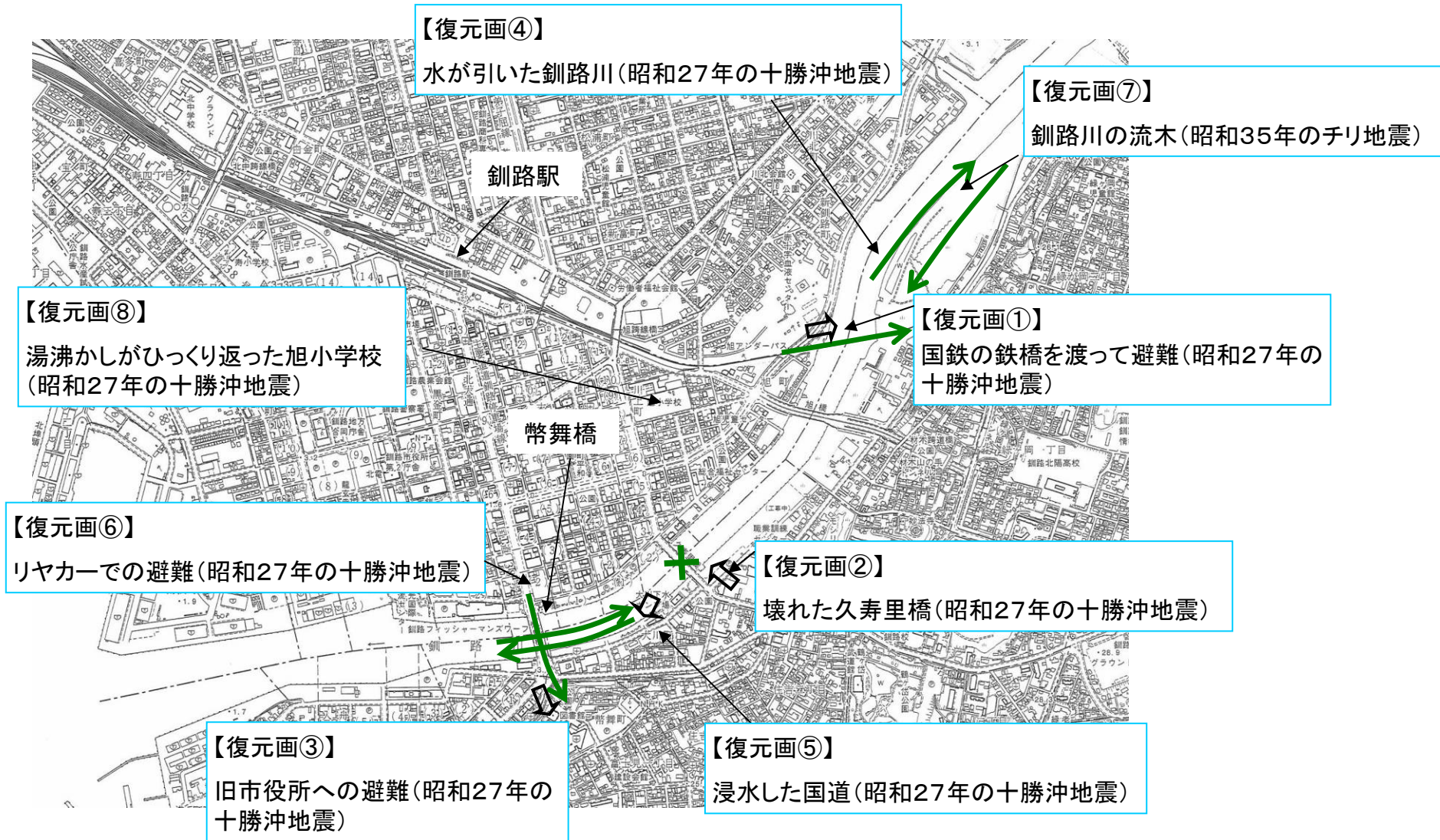
- ・平成6年10月4日 北海道東方沖地震

震度6の揺れにより、釧路市で負傷82人、住宅被害353戸。

- ・平成15年9月4日 十勝沖地震

震度5強の揺れとともに、高さ1.2mの津波を釧路で観測。

＜復元画を作成した場所と復元内容＞



復元画① 国鉄の鉄橋を渡って避難(昭和27年の十勝沖地震)



橋北(川の上流から見て右側)から対岸の高台を見た様子

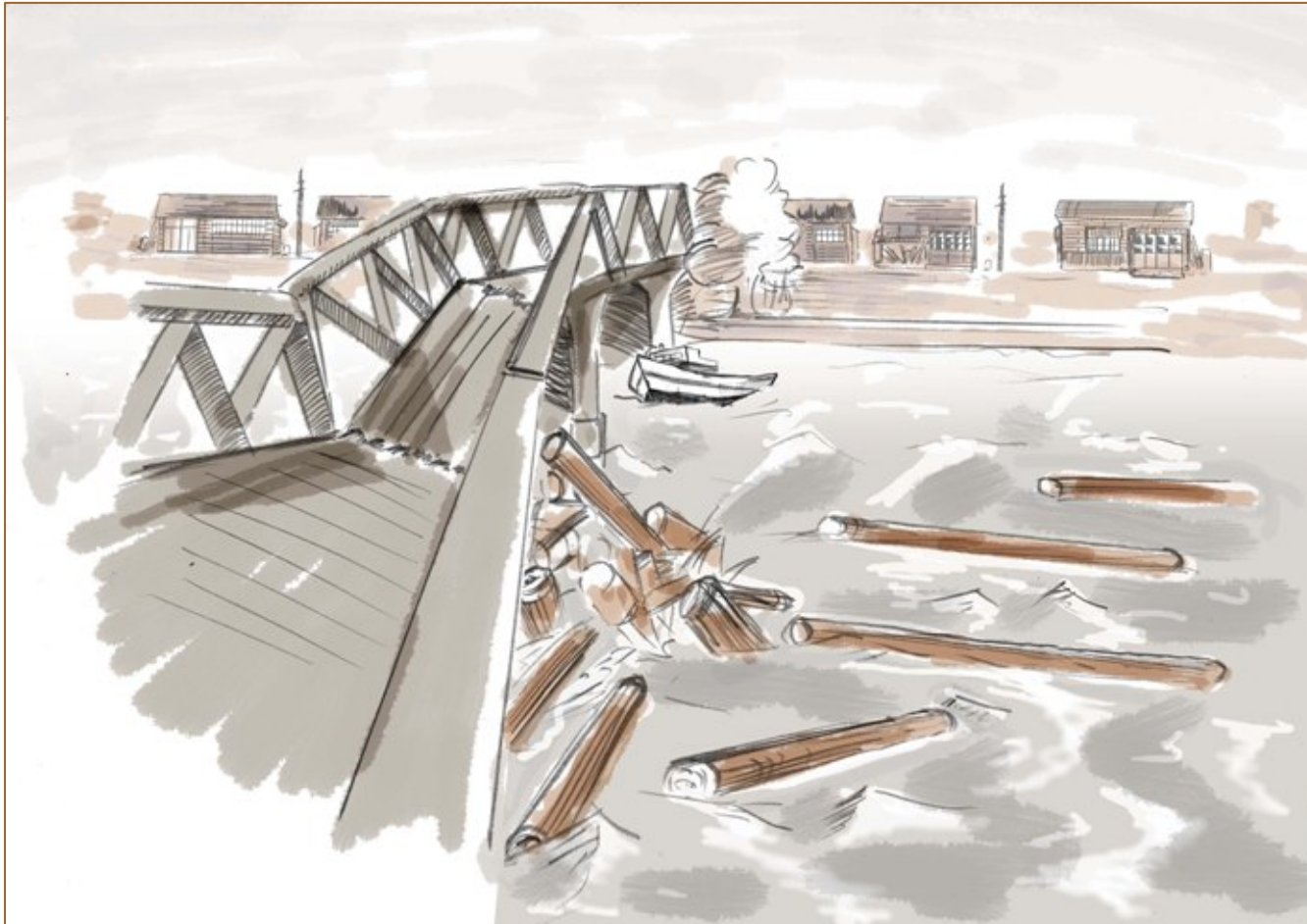
<体験談>

- ◆ 昭和27年の十勝沖地震の時は、鉄橋を渡って対岸に避難した。対岸に渡る橋は久寿里橋と弊舞橋しかなく、久寿里橋が落橋したので鉄橋を渡って避難するしかなかった。
- ◆ 当時の鉄橋は平らで、普段でも人が渡れるような通路、退避場所があった。柵は無かった。
- ◆ 3月だったので、雪が残っていた。天気はよかった。



現在の鉄橋

復元画② 壊れた久寿里橋(昭和27年の十勝沖地震)



大川町(川の上流から見て左側)から対岸を見た様子

<体験談>

- ◆ 昭和27年の十勝沖地震の時、上流の材木町から流れてきた丸太が橋にぶつかり久寿里橋が崩れ始めていたので迂回して逃げた。
- ◆ 当時の久寿里橋は木橋だった。
- ◆ 川沿いは漁師町で平屋が多かった。岸には木造の小さい船が係留されていた。



当時の面影を残すまちなみ

復元画③ 旧市役所への避難(昭和27年の十勝沖地震)



高台まで避難した人々の様子

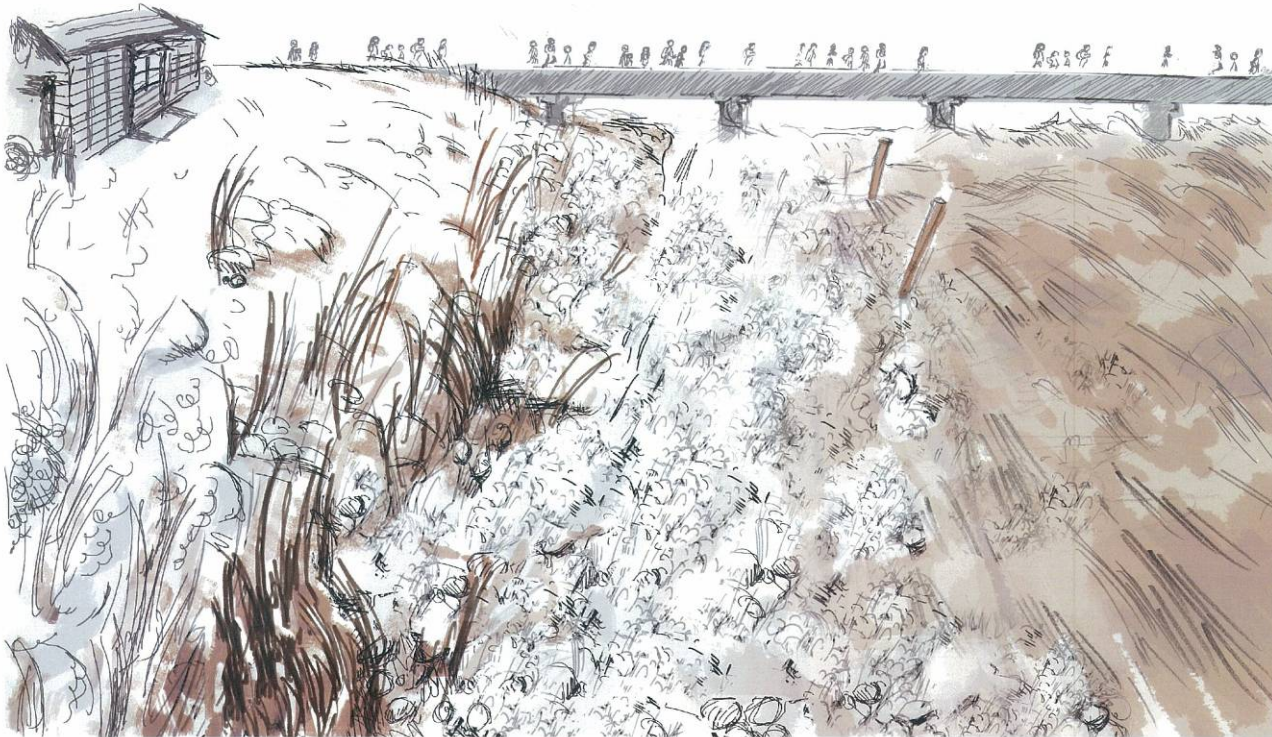
<体験談>

- ◆ 昭和27年の十勝沖地震の時は、現在の図書館あたりの高台に逃げた。
- ◆ 幣舞公園にかなりの人だかりが出来ていた。リヤカーは、坂があったため、旧市役所まで持ち上げられなかった。
- ◆ 小学校で1500人位いた地域なので、家族を勘案すると避難者はかなりの数であった。
- ◆ 避難した人を誘導するような人はいなかった。



現在の高台

復元画④ 水が引いた釧路川(昭和27年の十勝沖地震)



国鉄の鉄橋を川の上流から見た様子

<体験談>

- ◆ 昭和27年の十勝沖地震の時、10分か15分おきに津波が来たり、引いたりして川底が見えた。
- ◆ 川の真ん中は少し水があり、それ以外は干上がり、川底(砂利・土)が見えていた。
- ◆ 国鉄の鉄橋より上流が干上がったはず。
- ◆ 岸壁になってあらず、自然な川原(草が生えている)だったため、川の近くで覗くことはできなかった。
- ◆ 川沿いには木造の木工所や造船所があった。



現在の鉄橋

復元画⑤ 浸水した国道(昭和27年の十勝沖地震)



<体験談>

- ◆ 昭和27の十勝沖地震の時、当時の国道まで浸水した。
- ◆ 建物は平屋であった。立派な建物はなかった。
- ◆ 道路は舗装されていない。砂利道。車道と歩道の区分も無かった。
- ◆ 国道44号は川反対の北側にあった(ロータリーのあたりまで)。
- ◆ 道は細く、曲がっていたイメージがある。



現在の旧国道のまちなみ

復元画⑥ リヤカーでの避難(昭和27年の十勝沖地震)



<体験談>

- ◆ 昭和27の十勝沖地震の時、車が無いので歩いて避難。年寄りなどはリヤカーに乗せて運んだ。
- ◆ 水が来る前に逃げていたから、道路に水はなかった。
- ◆ 枠のないリヤカーに布団を載せて逃げた。
- ◆ 商売をしている人の家にはリアカーがあった。
- ◆ 近所で声を掛け合って逃げていたと思うが、避難は家族単位であった。



高台に向けて避難

復元画⑦ 釧路川の流木(昭和35年のチリ地震)



川の上流から下流の鉄橋方向を見た様子

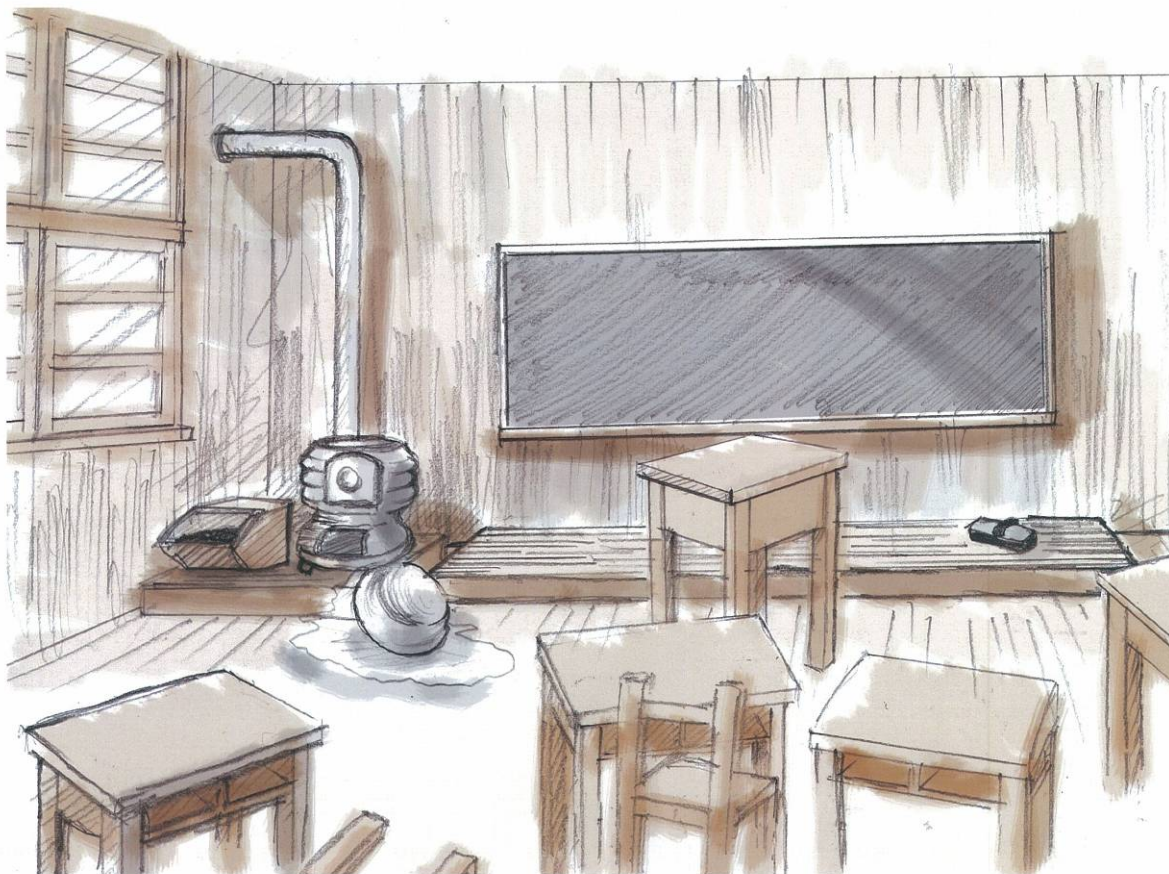
<体験談>

- ◆ 昭和35年のチリ地震の時、川沿いにあった筏や舟の丸太が川を矢のように行ったり来たりして船にぶつかって全部壊れた。丘までは上がってこなかった。
- ◆ 船が橋桁にぶつかり、ひっくりかえっていた。ものすごい大音響で、川の底を掃除しているみたいだった。
- ◆ 船はほとんどが小型船だった。
- ◆ 国鉄の鉄橋の北は壊滅的であった。
- ◆ 鉄橋あたりから水がなく、魚が川底で跳ねていた。



現在の鉄橋周辺

復元画⑧ 湯沸かしがひっくり返った旭小学校(昭和27年の十勝沖地震)



<体験談>

- ◆ 学校では石炭ストーブが中心であった。地震で上の湯沸しがひっくりかえっていた。
- ◆ 地震の時は先生の合図で一斉に校庭に逃げた。
- ◆ 集合煙突が壊れた。今は煙突を使っているところはないが。当時の小学校は確か二階建てだった。
- ◆ ストーブは窓側にあり、その横には石炭をいれた木箱があった。
- ◆ 当時の小学校は1クラス60名くらい生徒がいた。



現在の旭小学校(廃校)